

鈴鹿の景況 2023 年下期

調査結果まとまる

6 期連続改善を示していた現状 D I 値が今回悪化し、今後の見通しにも不安の声

鈴鹿商工会議所

中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年 1 月と 7 月に景気動向調査を行っている。このたび 2023 年下期（7 月～12 月期）の調査結果がまとまった。

全体の景気動向として、前期調査（2023 年 1 月～6 月期）と比較すると、現状 D I 値は $\Delta 22.9$ となり 7.5 ポイントの悪化を示した。今期調査では、新型コロナウイルス感染症による影響を受けた令和 2 年の調査以降、6 期連続で改善していた D I 値が悪化した。

業種別に見ると、小売業の D I 値が低く $\Delta 47.2$ （前期 $\Delta 52.3$ ）という結果となった。実際の小売店舗の声としては「物価高騰による買換えが影響していると考えている。」という声があった。また、輸入品を扱っている業者の業績の悪化の原因は、円安の影響が大きいと考えられる。

業種全体としては、現状 D I 値が $\Delta 22.9$ となり前期と比較して 7.5 ポイントの悪化を示した。新型コロナウイルスの影響は落ち着いてきているが、原材料価格の高騰で、コロナ前ほどお金を使ってもらえていない。また、慢性的な人手不足などは景気を下押しする要因だ。加えて、能登半島地震における被害も大きく、今後の経済への影響にも不安が高まっている。

(対象 1,100 社 回答企業 278 社、 回答率 25.3%)

D I 値 (ディフュージョン・インデックス)

D I とは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動（強気や弱気など）を知るためのものである。景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

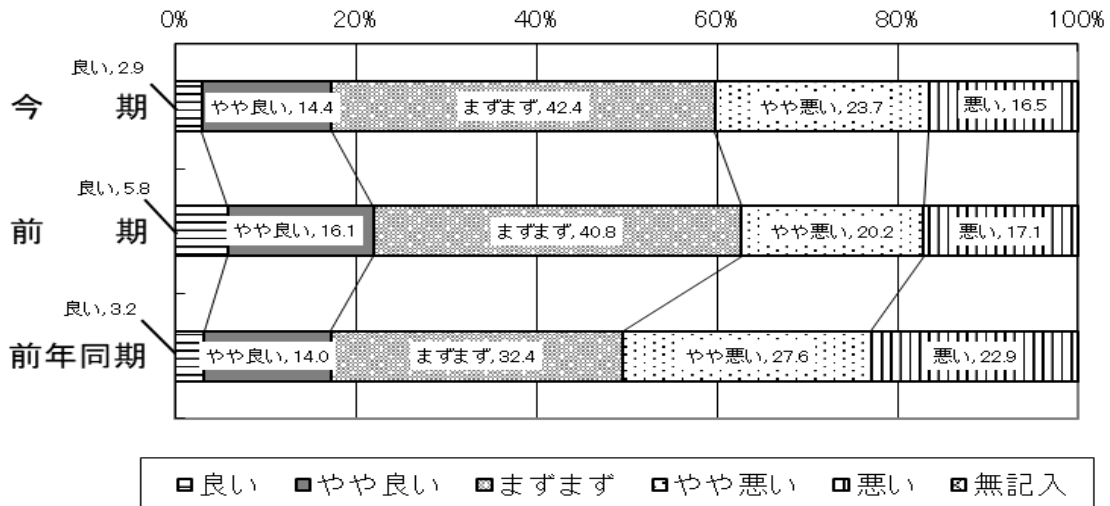
●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は 17.3%（前期 21.9%：前年同期 17.2%）、「やや悪い」「悪い」は 40.2%（前期 37.3%：前年同期 50.5%）となった。

景気動向を示す D I 値は、 $\Delta 22.9$ （前期 $\Delta 15.4$ ：前年同期 $\Delta 33.3$ ）と前期より 7.5 ポイント悪化、前年同期より 10.4 ポイント改善している。

業種別では、製造業 D I 値 $\Delta 28.3$ （前期 $\Delta 26.0$ ：前年同期 $\Delta 24.6$ ）、建設業 D I 値 $\Delta 19.0$ （前期 5.3：前年同期 $\Delta 23.4$ ）、卸売業 D I 値データなし（前期 $\Delta 50.0$ ：前年同期 $\Delta 33.3$ ）、小売業 D I 値 $\Delta 47.2$ （前期 $\Delta 52.3$ ：前年同期 $\Delta 50.0$ ）、飲食業 D I 値 $\Delta 20.8$ （前期 $\Delta 4.7$ ：前年同期 $\Delta 42.8$ ）、サービス業 D I 値 $\Delta 14.8$ （前期 $\Delta 18.9$ ：前年同期 $\Delta 40.0$ ）となった。

図-1 現状について



●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は 12.6% (前期 15.4% : 前年同期 8.9%)、「やや悪い」「悪い」は 40.7% (前期 39.3% : 前年同期 49.8%) となった。

DI 値は、 $\Delta 28.1$ (前期 $\Delta 23.9$: 前年同期 $\Delta 40.9$) と前期から 4.2 ポイント悪化、前年同期より 12.8 ポイント改善している。

業種別では、製造業 DI 値 $\Delta 31.7$ (前期 $\Delta 40.0$: 前年同期 $\Delta 30.7$)、建設業 DI 値 $\Delta 29.7$ (前期 $\Delta 7.3$: 前年同期 $\Delta 38.3$)、卸売業 DI 値 $\Delta 22.2$ (前期 $\Delta 25.0$: 前年同期 $\Delta 33.3$)、小売業 DI 値 $\Delta 52.7$ (前期 $\Delta 64.3$: 前年同期 $\Delta 54.6$)、飲食業 DI 値 $\Delta 12.5$ (前期 $\Delta 4.6$: 前年同期 $\Delta 28.6$)、サービス業 DI 値 $\Delta 12.7$ (前期 $\Delta 18.9$: 前年同期 $\Delta 52.4$) となった。

図-2 今後の見通し

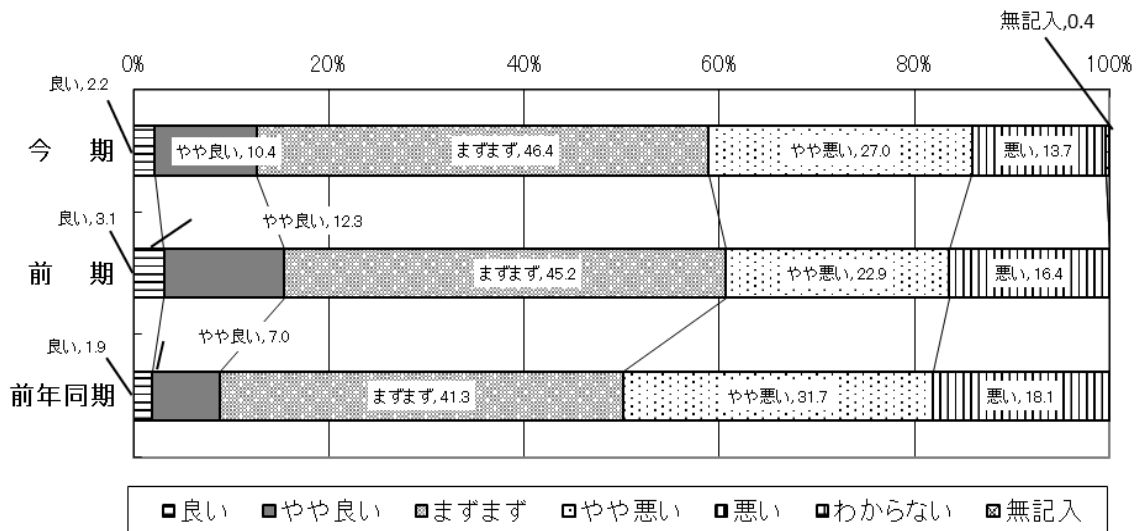
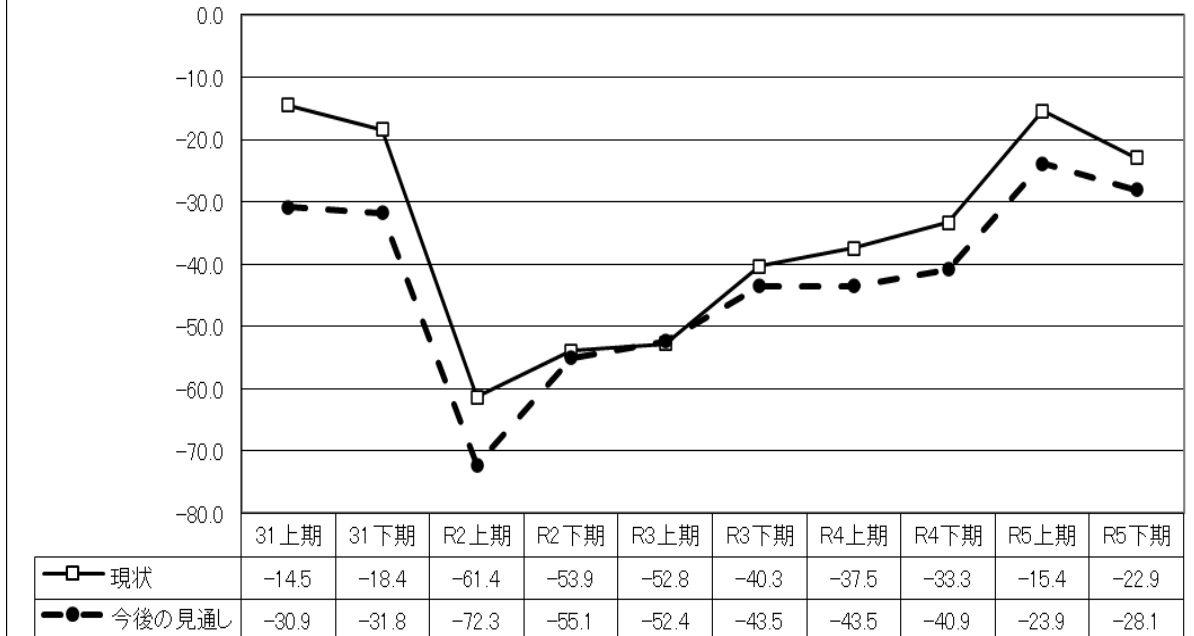
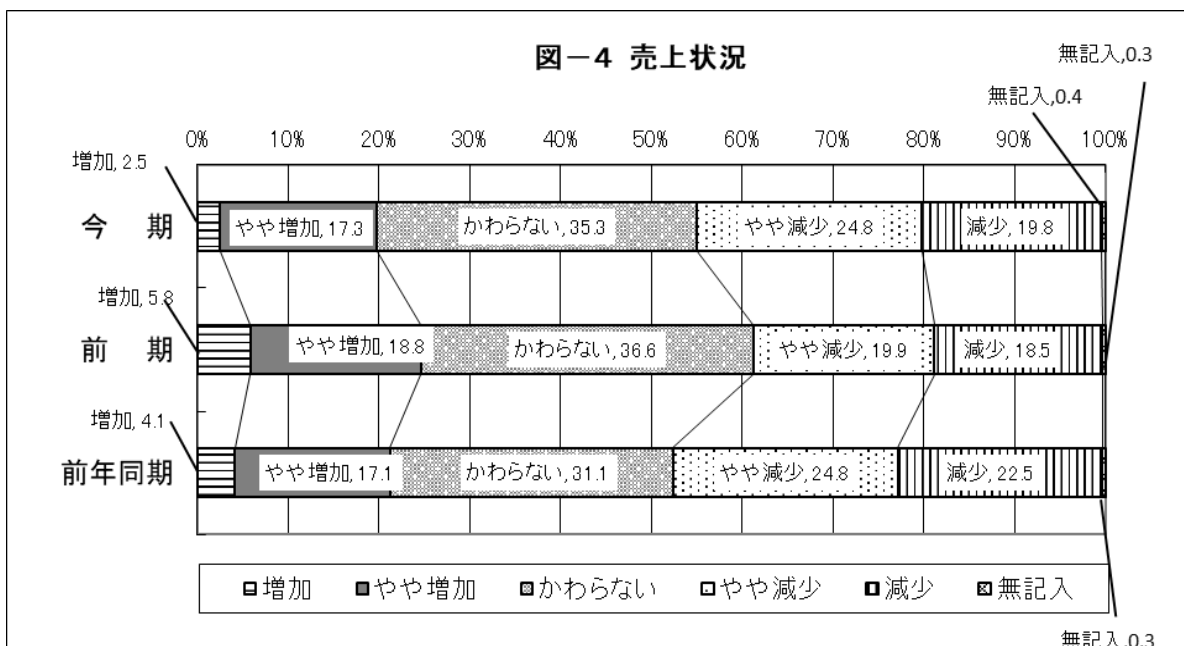


図-3 現状と今後の見通しの推移



●売上状況について (図-4 参照)

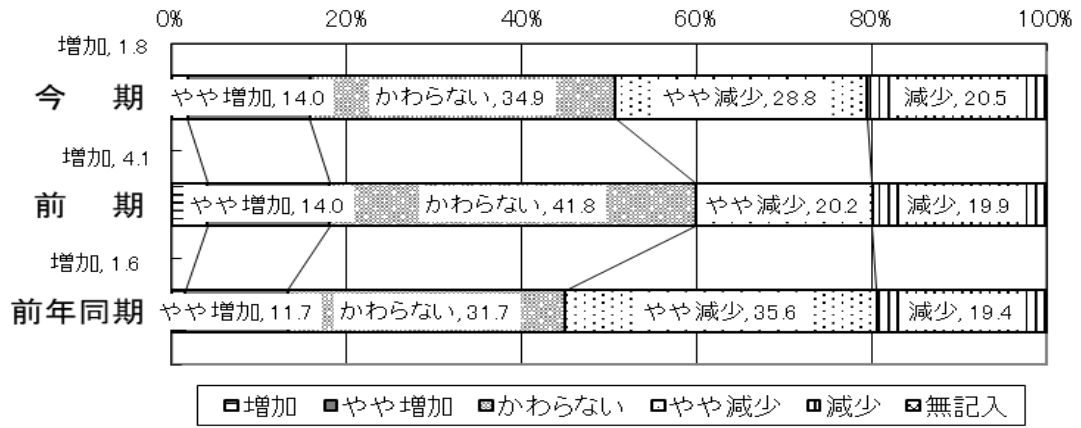
「増加」「やや増加」は 19.8% (前期 24.6% : 前年同期 21.2%)、「やや減少」「減少」は 44.6% (前期 38.4% : 前年同期 47.3%) となった。DI 値は△24.8 (前期△13.8 : 前年同期△26.1) と前期より 11 ポイント悪化、前年同期より 1.3 ポイント改善している。



●利益状況について (図-5 参照)

「増加」「やや増加」は 15.8% (前期 18.1% : 前年同期 13.3%)、「やや減少」「減少」は 49.3% (前期 40.1% : 前年同期 55.0%) となった。DI 値は△33.5 (前期△22.0 : 前年同期△41.7) と前期より 11.5 ポイント悪化、前年同期より 8.2 ポイント改善している。

図-5 利益状況



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少 (55.0)	原材料高及び不足 (35.0)	人手不足 (26.7)
	卸売業	売上・受注の停滞減少 (55.6)	原材料高及び不足 (33.3)	人手不足 税務・経理 (22.2)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (55.6)	競争激化 (36.1)	原材料高及び不足 (19.4)
	建設業	人手不足 (53.6)	原材料高及び不足 (48.8)	売上・受注の停滞減少 (35.7)
	飲食業	原材料高及び不足 (70.8)	売上・受注の停滞減少 (37.5)	人件費以外の経費増加 人手不足 設備店舗の狭小老朽化 (25.0)
	サービス業	原材料高及び不足 (42.6)	売上・受注の停滞減少 (31.9)	税務・経理 (21.3)
	交通運輸業	人手不足 (100.0)	人材育成 (66.7)	売上・受注の停滞減少 競争激化 法的規制等の問題 (33.3)
	その他	設備店舗の狭小老朽化 人材育成 (35.7)	売上・受注の停滞減少 原材料高及び不足 (28.6)	人手不足 (21.4)
総合	売上・受注の停滞減少 (42.4)	原材料高及び不足 (41.7)	人手不足 (30.6)	
前年同期	売上・受注の停滞減少 (38.4)	原材料高及び不足 (34.9)	人手不足 (24.7)	

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 20.8% (前期 21.7% : 前年同期 9.1%)、「やや悪い」「悪い」は 50.0% (前期 60.9% : 前年同期 59.1%) となった。DI 値は $\Delta 29.2$ (前期 $\Delta 39.1$: 前年同期 $\Delta 50.0$) と前期より 9.9 ポイント、前年同期では 20.8 ポイント改善している。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 16.7% (前期 17.4% : 前年同期 13.6%)、「やや悪い」「悪い」は 62.5% (前期 69.6% : 前年同期 68.2%) となった。DI 値は $\Delta 45.8$ (前期 $\Delta 52.2$: 前年同期 $\Delta 54.6$) と前期では 6.4 ポイント、前年同期より 8.8 ポイント改善している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」25.0% (前期 34.7% : 前年同期 22.7%)、「やや減少」「減少」は 45.8% (前期 56.5% : 前年同期 50.0%) となった。DI 値は $\Delta 20.8$ (前期 $\Delta 21.8$: 前年同期 $\Delta 27.3$) と前期より 1.0 ポイント、前年同期より 6.5 ポイント改善している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 16.7% (前期 21.7% : 前年同期 9.1%)、「やや減少」「減少」は 50.0% (前期 52.1% : 前年同期 45.5%) となった。DI 値は $\Delta 33.3$ (前期 $\Delta 30.4$: 前年同期 $\Delta 36.4$) と前期より 2.9 ポイント悪化、前年同期より 3.1 ポイント改善している。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 12.5% (前期 21.7% : 前年同期 9.1%)、「やや減少」「減少」は 50.0% (前期 52.2% : 前年同期 63.7%) となった。DI 値は $\Delta 37.5$ (前期 $\Delta 30.4$: 前年同期 $\Delta 54.6$) と前期より 7.1 ポイント悪化、前年同期より 17.1 ポイント改善している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 0 5 9 - 3 8 2 - 3 2 2 2

FAX : 0 5 9 - 3 8 3 - 7 6 6 7